

# 長引く咳

## ——病歴聴取と身体診察で ここまでわかる



平島 修 (名瀬徳洲会病院内科部長／徳洲会奄美ブロック総合診療研究センター長)

本コンテンツはハイブリッド版です。PDF だけでなくスマホ等でも読みやすい HTML 版も併せてご利用いただけます。

▶HTML 版のご利用に当たっては、PDF データダウンロード後に弊社よりメールにてお知らせするシリアルナンバーが必要です。

▶シリアルナンバー付きのメールはご購入から 3 営業日以内にお送り致します。

▶弊社サイトでの無料会員登録後、シリアルナンバーを入力することで HTML 版をご利用いただけます。登録手続きの詳細は <https://www.jmedj.co.jp/page/resistration01/> をご参照ください。

▶登録手続

Introduction	p2
1 長引く咳と慢性咳嗽	p4
2 慢性咳嗽でターゲットとなる疾患	p7
3 慢性咳嗽の病歴聴取	p13
4 慢性咳嗽で注意したい身体診察	p17
5 慢性咳嗽の新たな視点	p21
6 慢性咳嗽診療は面白い！	p22

▶HTML 版を読む

日本医事新報社では、Web オリジナルコンテンツを制作・販売しています。

▶Webコンテンツ一覧

# Introduction

## 1 長引く咳と慢性咳嗽

### (1) 患者が訴える「長引く咳」と医師が考える「慢性咳嗽」の違い

- ・認識のずれにより患者-医師関係が崩れないよう，共感を示しつつ診察する。

### (2) 日本と欧米で異なる慢性咳嗽への考え方

- ・日本の慢性咳嗽3大疾患，アトピー咳嗽は日本発。欧米には概念が広がっていない。
- ・米国に多い胃食道逆流症による咳嗽は日本に少ない。

### (3) 慢性咳嗽の病態を考える2つのキーワード

- ①咳受容体感受性亢進か気道過敏性亢進か，②好酸球性か好中球性か。

## 2 慢性咳嗽でターゲットとなる疾患

### (1) 主な原因(5つの鑑別診断)

- ①咳喘息，②アトピー咳嗽，③副鼻腔気管支症候群(SBS)，④感染後咳嗽，⑤胃食道逆流症

### (2) 見逃したくない原因(5つの鑑別診断)

- ①百日咳，②中枢気道病変，③慢性閉塞性肺疾患(慢性気管支炎)，④間質性肺炎，⑤アンジオテンシン変換酵素阻害薬

## 3 慢性咳嗽の病歴聴取

### (1) 咳の性状(乾性か湿性か)

- ・「乾性か湿性か」がすべての鑑別の始まり。

### (2) 咳の強度

- ・visual analogue scale (VAS) かnumerical rating scale (NRS) で評価する。

### (3) 日内変動・増悪因子

- ・アレルギー疾患は、深夜から明け方に増悪する。

### (4) 社会・環境要因

- ・患者固有の環境因子を探る。

### (5) 随伴する症状

- ・慢性疾患では、低酸素血症があっても呼吸困難を欠くことがある。

## 4 慢性咳嗽で注意したい身体診察

### (1) バイタルサイン

- ・労作時の呼吸状態まで確認する。

### (2) 目

- ・眼球結膜の充血に注意する。

### (3) 耳

- ・耳鏡で5つの解剖を確認する。

### (4) 副鼻腔

- ・副鼻腔炎では、圧痛あるいは叩打痛を確認する。

### (5) 口腔～咽喉頭

- ・咽頭後壁のリンパ濾胞を確認する。

### (6) 頸部

- ・後頸部リンパ節は、探るように確認する。

### (7) 胸部

- ・呼吸音は、強制呼気で評価する。

## 5 慢性咳嗽の新たな視点

### (1) フレイルと咳嗽反射の低下

- ・誤嚥性肺炎は、嚥下機能および咳嗽反射の低下による。

### (2) 難治性咳嗽の新しい考え方

- ・治療抵抗な咳嗽に新しい概念が提唱されている。

# 1 長引く咳と慢性咳嗽

## (1) 患者が訴える「長引く咳」と医師が考える「慢性咳嗽」の違い

「咳が長引く」という主訴で受診する患者は、日常診療で遭遇する頻度が高い。その多くは2週間以内に発症した急性咳嗽で、たとえ1週間でも患者は「長引く咳に困っている」と訴える。我々医師が定義する「慢性咳嗽」は8週間以上長引く咳であり、患者が訴える「長引く咳」と医師が考える「慢性咳嗽」が乖離していることは多い。医師の関心は「患者の訴えが命に関わる疾患か否か」に向きやすいが、患者は「咳嗽という苦痛を少しでも早く取り除いてほしい」と考える点にずれがある。

医学的な目安では、咳嗽の発症から3週間未満を「急性咳嗽」、3週間以上8週間未満を「遷延性咳嗽」、8週間以上を「慢性咳嗽」と言い、慢性咳嗽であれば感染症の可能性は低くなる(図1)<sup>1)</sup>。急性咳嗽の原因で最も多いのは、かぜ症候群を代表としたウイルス性疾患である。ただし、細菌性肺炎、急性心不全、肺塞栓症など命に関わる緊急疾患も含まれるため、急性咳嗽はそれらの疾患を念頭に置きつつ診療を進める必要がある。

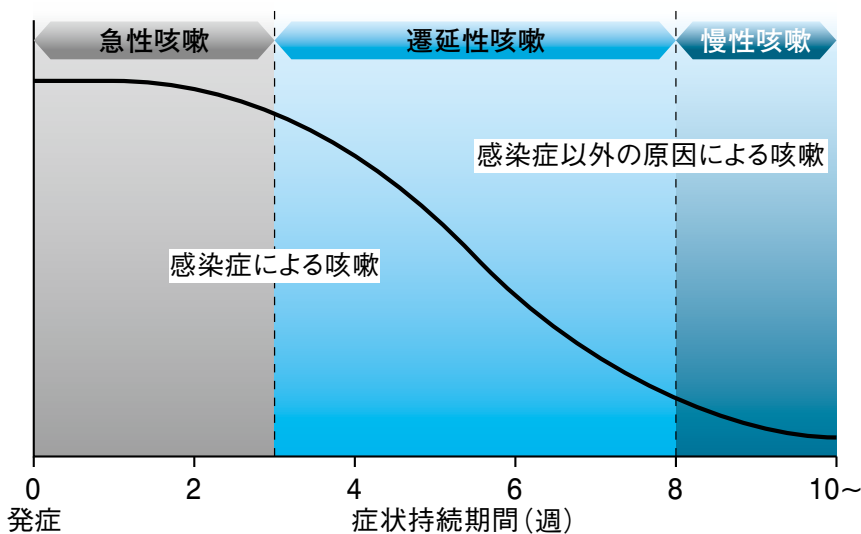


図1 咳嗽の時期による分類と感染症の関与

(文献1より転載)

遷延性咳嗽も感染症に関連した咳嗽が多いが、期間が長引くほど感染症以外の疾患が原因となる。この時期にはウイルス感染後の感染後咳嗽が多